

13時 開会 伊勢原市長 高山 松太郎

13時10分～ 創作落語

演題 「大山詣り（上）」

出演 せたが家志ん金さんやし きん（本名＝澁井和夫さんしぶい かすお）



【プロフィール】

慶応義塾大学落語研究会昭和48年卒。
在学中の芸名は「三代目三遊亭恋生さんゆうていれんしょう」。
※五代目三遊亭恋生は、現在、金原亭馬生門下の金原亭駒与志。
※八代目三遊亭恋生は、立川談志の弟子で立川談慶。
現在は、世田谷信用金庫落語研究会顧問として活躍中。
古典落語の持ちネタは多数あり、現代の世相に合わせた改作などにも意欲的に取り組んでいる。

【創作落語「大山詣り」について】

「大山みちの会」からのご要請に答え、大山詣りがどのようなものだったかを盛り込んだ創作で、三人旅や天災、黄金餅といった古典落語のアレンジを加えて仕立てました。いわば、古典落語「大山詣り」の前編と位置づけられる斬で、特に大山街道を辿る「言い立て」が聞きどころです。

13時40分～ 基調講演

演題 「大山と神様百名山 ～山岳お遍路、大山をゆく～」

講師 廣田 勇介さんひろた ゆうすけ（山岳ガイド/山岳写真家）



【プロフィール】

富士山を仕事で300回以上登ることにより、日本の信仰登山に興味を持ち、日本全国の霊山を歩きはじめる。現在は山岳ガイドとして活動する傍ら、全国の霊山取材し、アウトドア雑誌ランドネで「神様百名山を旅する」を好評連載中。

【内容】

私達のおじいさん、おばあさんの世代まで、日本人は、山から恩恵を受け、山神様の恵みのもとで暮らしているのだ、という実感のもと日々の暮らしを営んできました。いわゆる山岳信仰の長い歴史です。

しかし、山神様よりもiPhoneやインターネットの恩恵を知りすぎている私たちの世代は、今更、敬虔な信仰の生活に戻ったり、山で修行したりすることは難しいかもしれません。

では、どのようにすれば、今まさに失われつつある日本の山岳信仰の歴史を次の世代につなげていくことができるのでしょうか？

そのヒントは、大山詣りの大山講の中にあると、私は考えます。レジャーでもなく修行でもない不思議な存在の「大山詣り」。その中には、都市で生活する人間と自然と関わり、人間関係の構築、自然との共存など21世紀に生きる私たちにとって、様々なヒントが隠されています。日本各地の霊山を巡る山岳お遍路の目から見た、残された聖地、大山と大山詣りのお話です。

14時30分～14時45分 休憩

14時45分～ 事例発表

テーマ 「WE♥️大山街道」

登壇 川崎市大山街道ふるさと館

副館長 對馬 醇一さんつしまじゅんいち



【川崎市大山街道ふるさと館とは】

大山街道にまつわる貴重な歴史資料などの保存や展示をすることを目的として設置された施設。展示室は、午前10時～午後5時まで観覧無料・出入り自由。

住所 川崎市高津区溝口3-13-3

最寄駅 溝の口駅・高津駅

電話 044-813-4705

【登壇者プロフィール】

認定NPO法人教育活動総合サポートセンター副理事長
川崎市大山街道ふるさと館副館長
郷土史研究家・川崎郷土研究会会員



【内容】

大山街道ふるさと館の主たる事業内容を紹介します。

博物館事業

歴史文化探究事業

地域活性化事業

※別添チラシ「ようこそ川崎市大山街道ふるさと館へ」参照

15時35分～ 古典落語

演題 「大山詣り（下）」

出演 せたが家志ん金さんやし きん（本名＝澁井和夫さん）

【古典落語「大山詣り」について】

演目は大山詣りですが、参詣を終えた後の斬、いわば後編に当たる斬で、古典落語の中では、比較的よく知られている部類に入ります。基本的には夏の斬として演じられ、別名「百人坊主」。なぜかは聴いてからの楽しみ♪

16時 閉会 大山観光振興会長 目黒 仁めぐろ ひとし
（大山阿夫利神社宮司）